

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第1区分

【発行日】平成21年3月26日(2009.3.26)

【公表番号】特表2008-532485(P2008-532485A)

【公表日】平成20年8月21日(2008.8.21)

【年通号数】公開・登録公報2008-033

【出願番号】特願2007-553214(P2007-553214)

【国際特許分類】

C 12 M 1/00 (2006.01)

B 82 B 1/00 (2006.01)

G 01 N 21/78 (2006.01)

【F I】

C 12 M 1/00 A

B 82 B 1/00

G 01 N 21/78 C

【手続補正書】

【提出日】平成21年1月26日(2009.1.26)

【手続補正1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項1】

(a) 入口ポートと、

(b) 出口ポートと、

(c) 上記入口ポートおよび上記出口ポートの中間にあり、上記入口ポートおよび上記出口ポートと液体連通する結合チャネルとを有し、

上記チャネルの表面の少なくとも一部が核酸の不均一集団を結合するために有効な未改質の平坦ガラス表面である装置。

【請求項2】

上記核酸は二本鎖DNAまたは一本鎖DNAまたはRNAである請求項1記載の装置。

【請求項3】

上記核酸の不均一集団を計量する手段をさらに有する請求項1記載の装置。

【請求項4】

カオトロピック塩溶液から核酸の不均一集団を補足する方法であって、核酸の不均一集団を含有するカオトロピック塩溶液を核酸を固定化するのに有効な平坦ガラス表面に接触させるステップを有する上記方法。

【請求項5】

固定化された上記核酸は二本鎖DNAまたは一本鎖DNAまたはRNAである請求項4記載の方法。

【請求項6】

固定された上記核酸を洗浄するステップをさらに有する請求項4または5記載の方法。

【請求項7】

固定された上記核酸を上記ガラス表面から開放して開放された核酸を取得するステップをさらに有する請求項4または6記載の方法。

【請求項8】

開放された上記核酸を計量するステップをさらに有する請求項7記載の方法。

【請求項 9】

- (a) 入口ポートと、
- (b) 出口ポートと、
- (c) 上記入口ポートおよび上記出口ポートの中間にあり、上記入口ポートおよび上記出口ポートと液体連通する結合チャネルとを有し、

上記チャネルの表面の少なくとも一部が核酸の不均一集団を結合するために有効な結合試薬で階質される装置。

【請求項 10】

上記結合試薬は二本鎖DNAまたは一本鎖DNAを結合するために特異的であるか、またはRNAを結合するために特異的である請求項9記載の装置。

【請求項 11】

上記結合試薬は核酸指示蛍光分子である請求項9記載の装置。

【請求項 12】

上記結合試薬はDNAインターラーカーおよびDNAマイナーグループバインダーからなるグループから選択され、または、上記試薬はベンズイミド、ビスベンズイミド、およびビスベンズイミドアミンからなるグループから選択される請求項9記載の装置。

【請求項 13】

上記結合試薬は、Hoechst 33258の誘導体、またはシアニン誘導体、またはチアゾールオレンジ誘導体である請求項9記載の装置。

【請求項 14】

溶液から核酸の不均一集団を補足する方法であって、核酸を含有するカオトロピック塩溶液を、核酸の不均一集合を結合するのに有効な結合試薬によって改質された表面に接触させて上記表面上に固定化させた核酸を取得するステップを有する上記方法。

【請求項 15】

上記結合試薬は二本鎖DNAまたは一本鎖DNAを結合するために特異的であるか、または上記結合試薬はRNAを結合するために特異的である請求項14記載の方法。

【請求項 16】

上記結合試薬の蛍光を測定して上記表面に固定化された上記核酸の不均一集団を計量するステップをさらに有する請求項14記載の方法。